

会議議事録

第6回 インフラ自分ごと検討会

日付:	2025年8月8日(金)
時刻:	10:00-12:00
議事録作成者	浅野和香奈

出席者

佐々木、宮城、平野、恩田、浅野、二瓶、中島、加藤、松田、久田、岩城

議事録

佐々木座長からイントロダクション

- 本会議の目的：これからどのように進めていくか、方向性を決めること。
- 家田先生が委員長を務める[下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会](#)では提言を2回出している。また、[日経コンストラクションも八潮の事故の記事を書いている](#)。岩城先生がまとめた本、[インフラメンテナンス大変革](#)もある。現土木学会会長である[池内先生のインタビュー](#)にも「自分ごと」というキーワードが出てきた。また、「インフラ」という言葉が色々なところで使われ、日常会話の中でもインフラという言葉が出てくる。
- 土木学会の検討会として取り組むことは何かを考えなければならない。会員一人ひとりが考えたり、意識を変えたり、態度を変えたりしてもらいたい。
- 既存の委員会、組織に対する働きかけ、学会から世の中に出す内容の検討が必要。専門家として議論すべきトピックとしては、「多重・分散インフラの概念や整備哲学」「インフラメンテナンスの費用負担論」「インフラの概念」「管路破壊メカニズム」があるのではないかな。

議論

- 久田：技術的な部分はしっかり予算を取って国の方で進展させる動きがある。そのため学会独自の方向性を重視しては。
- 平野：対象構造物については、地中構造物にフォーカスするか、あるいはインフラを広く捉えるのかもポイント。
- 佐々木：[インフラメンテナンス総合委員会](#)は橋が中心。下水道に特化しなくても良いが、あまり広げ過ぎてもぼやけるのでは。
- 久田：インフラメンテナンス総合委員会は技術的なアプローチが主で、アウトリーチは岩城先生がアクティビティ部会で情報発信をしっかりとやっている。国土交通省にも届いており、一緒にやっという機運ができています。土木学会と国土交通省で連携しながら役割を整理することが大切。
- 中島：文科省は学校の長寿命化、厚労省は病院を担当。国は分野別で進め、総務省からの指示で地方には公共施設等総合管理計画の作成を求め、この実務は総務課が担っていることが多い。
- 久田：群マネは隣接自治体との協働が前提だが、必ずしも実現できる関係でない場合もある。自然な流れは県レベルのゾーニングでチームを作ることはないかな。
- 加藤・松田・浅野：市民へのアプローチを行うのも良いのではないかな。今後起こり得る重大事象を分かりやすくビジュアル化して自分事化を促す発信が有効ではないかな。南海トラフ動画、[気候変動アクションガイド](#)、[未来予測 2040](#)、などを手掛かりに、継続的な情報提供と根拠ある解決案の提示が必要では。脅しに頼らず初動の具体策を示すことが鍵。動画だけでなく、[教育向けのコンテンツや絵本/マンガ的アプローチ](#)、[一般募集の形式](#)も検討。市民が自分の言葉で伝えられる場を作ることも必要では。各委員会で2040年代の危機像を共有し、絵にして発信素材にするのも良いのでは。
- 佐々木：一度テーブルの上に現状を並べてみたい。問題全体を俯瞰する絵を作成しても良いと思う。

●岩城：責任を持ってやるためにも**考えを文章にする**のはどうか。ここにいるメンバーは分野がそれぞれ。その意見を集積するだけでも相当なものになる。その次には**土木学会バラバラに活動してきたものを繋ぐ**という作業を一回やる必要があるのではないか。

●岩城：市民に向けてどう伝えるか。最終的には**市民が自分事としてこの問題を捉える**ということが一番大事。

●岩城：群マネやハンズオン、終活等の取り組みと合わせて俯瞰して見て、国交省と土木学会の双方で議論を公開する案も検討。

●岩城：会長プロジェクトは1年間でその中でできることは限られている。この検討会は会長プロジェクトのその後に位置づけることができ、重要なこと。

●佐々木：論説は重い。会員の意見を得るには、**参加型で顔を出して自分事というキーワードで一言書いてもらう**ようなものでも良いのでは。学生も巻き込みつつ、集合写真やモザイク風にして可視化するのもあり。

●中島：カフェトーク風の**音声配信**や **YouTube/ニコニコ動画のようにコメント参加型でインフラを語る**のも手軽ではないか。

●佐々木：期間は最大今年度。予算、マンパワー不足もあり、外への発信は片手間でできるようなことではないから、**JSCE2025の重点プロジェクトに引き継いでいく**という方法はあり得るかも。

●岩城：予算が付くまでは自分事というキーワードで徹底的にキャンペーンを貼ってはどうか。

●佐々木・浅野：「**自分ごと**」の捉え方は様々であり、誤解されないように**意味や受け取られ方を事前に整理**したい。自分一人ではなく「**私たちごと**」へどうつながるかが課題。**市民に対して使う際には、言葉選びを慎重に行う、あるいは説明が必要**ではないか。

●中島・佐々木：工事看板の文言を「生活を支える水を届けるために」等、**生活視点で伝えること、前向きな表現で伝えること**で自分事化が進むのではないか。**公共事業の費用・効果を市民に伝える**のも重要。ニューヨークでは税金の使い道を誇示する形で周知していた。

夏休みの宿題について

●9月後半ごろを目安に**800～1000文字で作文**する。作文は検討会限りの文章で、そこから集約し、俯瞰図にも落とし込める。書いたキーワードを Chat GPT 等で拾ってパブルチャートして分析を行うこともできる。

●俯瞰する作業と言葉について整理することも必要。まずは、**今どんな取り組みがあるかを知るための資料、リンクを集める**。その際に中身が分かるようにハッシュタグをつける。後で組み替えるが素材集めをお願いしたい。

次回のスケジュール確認

宮城さんから調整の連絡がある。次回は10月頃を予定。